

1

御堂筋完成記念碑の前に立って



御堂筋 の かたまり

大阪のメインストリート・御堂筋が今年、誕生から70周年を迎えた。幅44メートルの一方通行路という発想の大胆さもあることながら、高さのそろった街並みや名物のイチヨウ並木が独特の風景を生み出し、市民に親しまれている。21世紀に生きる御堂筋の姿を、画家の熱田親憲さん(71)の絵と文で描き取る。

熱田さんは、かつて三洋電機で若者をターゲットに、外観を濃い藍色で統一したシングルライフ家電「It's」ブランドを開発し、大ヒットさせた立役者。転職後の現在は関西学院大、関西国際大で社会学などの教壇に立つたつたわら、個展を開いて画家としての活動も本格化している。題字は妻の書家、熱田素華さん。

御堂筋の高麗橋3丁目交 工事事務所(抜粋)

この条件がそろったのだ。

差点北西側にある御堂筋完成50周年記念碑の前に立つた。70年前と20年前のビル街の写真が刻まれており、その下に顕彰の文が続いている。「明治22年鉄道の開通によって大阪駅を玄関とした南北軸の道路の必要が叫ばれ、大正15年幅44メートル、工事事務所(抜粋) これを70周年の記念碑に建て替えるとしたら、どうなるか。まず建立は国土交通省、府、市、企業団体、市民グループの連名となる。大阪のこころのオアシスとビジネスパークとして育ててきた先人の知恵と決断に敬意を表し、21世紀にふさわしいコンテンツポラリーな都市機能を十分に果たす環境文化都市としての街づくりを宣言したいものだ。

第一歩は電柱の地中化であると思ったら、すでにこの拡幅工事に折り込み済みであった。ヨーロッパで見本を見て、即日本で実行した決断力はいしたものである。これで街路樹の銀杏がよく育ち、よく映え、夜には街灯の明かりでたまたま空間ができ、オアシ

先人の知恵と決断に敬意

長さ4050メートルという大規模な街路・御堂筋の工事に着工し、昭和12年に完成しました。都心のオアシスとして大阪を象徴するメインストリートです。昭和62年8月10日 建設省大阪国道

わいらよいかを考えよう、とアピルしたい。その舞台を御堂筋に置き、人間の目の高さでゆっくり街を味わってみたいと思う。この連載がみんなで考えるたまたま台になれば、大阪に21世紀の新たな灯がともるだろうと。皆さまとの出会いを楽しみにしています。これから都市機能論、風景論、環境論、都市文化論、ネットワーク論など絵筆とペ



スの条件がそろったのだ。このオアシスに公園の機能を持たせると、もっとTPO人間が集まってくるであろう。私と御堂筋とはほぼ同年代である親しみも手伝って、記念碑前で次のようにつぶやいた。「関西復権の前に、大阪が関西圏の求心力のコアになるにはどう